

多国籍企業学会 第 18 回全国大会 統一論題テーマ

ポスト・グローバリゼーションと多国籍企業研究の再起動

今日のグローバル経済は、地政学的分断、貿易・投資摩擦の常態化、主要国の経済停滞、気候変動ショック、デジタル化・AIの急速な進展など、複数の変化が同時に進行する転換期にある。なかでも、市場統合と効率性を前提としてきた“グローバリゼーション（Globalization）”の時代は、分断と再編を特徴とする“ポスト・グローバリゼーション（Post Globalization）”へと移行し、こうした環境変化に対応するため、多国籍企業は戦略および組織運営の再設計を迫られている。同時に研究面においても、既存の前提や方法論の延長だけでは十分とはいえず、多国籍企業研究そのものを“再起動（Reboot）”する必要性が高まっている。即ち、従来の理論枠組みを更新するとともに、データと手法に基づく計量・比較分析の拡張、並びに質的・フィールド研究の深化を組み合わせた統合的アプローチが、今日の多国籍企業研究に求められる。

以上の問題意識の下、第 18 回全国大会の統一論題セッションでは、戦略、組織、マーケティング、経営史の 4 分野を代表する次世代研究者が研究報告を行う。各報告では、なぜ分析対象として多国籍企業が重要なのかという前提を確認した上で、問題意識を各分野の文脈で明確化し、今後重要となる分析視角・方法論および研究課題を提示する。これに対して各分野の討論者が論点を提示し、議論を通じて争点と含意を明確化する。さらにパネルディスカッションでは、フロアの会員からの質問・コメントも踏まえて討論を行い、統一論題全体の総括へとつなげる。分野横断的な報告と討論を通じて、学術的知見と実務的示唆を接続しながら、我が国における多国籍企業研究の再起動に向けた論点と課題を共有することを最終的な目標とする。

プログラム委員会

關 智一（委員長 立教大学）

山口隆英（兵庫県立大学）

荒井将志（亜細亜大学）

坂本義和（日本大学）

黄 雅雯（北星学園大学）

李 玲（広島市立大学）

千島智伸（阪南大学）